



愛知中小企業家同友会

だより

共育委員会 入社2年目の社員研修

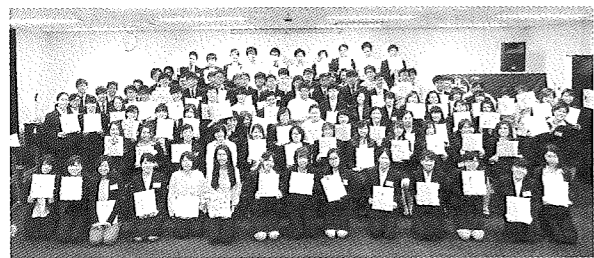
(6月15日)

入社2年目の社員研修が開催され49社から102人が参加。オリエンテーションでは、自らの仕事内容を紹介があった。

先輩社員から学ぶ講座では、先輩社員が登壇し、教える立場に立った時、先輩社員が自分に厳しく指導したのは、何も知らない自分を一生懸命育てようと叱ってくれていたことに気づいたというエピソードを紹介。後輩を育てる難しさを感じながらも、成長する姿を目の当たりにするとうれしく感じるとも述べ、受講生からは「仕事を教えてもらい感謝しています」といった感想が出された。

1年間で成長したことやうれしかったことをテーマにした討論では、「できる仕事が増え、会社の一員として働くことができるようになった」「上司から信頼され、仕事を任せられた時がうれしい」との意見が出された。また、抱えている悩みでは、「後輩が入社して教える立場に立ち、どう教えたらいいかわからない」といった率直な声が出された。

最後の経営者と語る講座では、今後どのように成長していきたいのか、何のために働くのかを経営者と一緒になって考えた。



決意を色紙に記し、さらなる成長を誓う参加者ら

愛知中小企業家同友会

問い合わせ

〒460-0003 名古屋市中区錦3-6-29 サウスハウス2階
TEL(052)971-2671 FAX(052)971-5406
http://www.douyukai.or.jp/

高い品質の給水装置で 安全な飲み水を供給



前田バルブ工業
専務 前田崇統

愛知中小企業家同友会の元気印

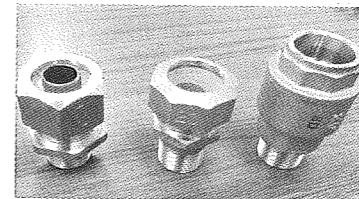
当社は生活に欠かせない水をご家庭にお届けするための水道用バルブ、継手のほか防災設備、消防設備の製造販売を手掛けています。2008年には愛知県内の優れたモノづくり企業に認められる「愛知ブランド企業」に認定されました。

また、メーカーではありませんが、これにとどまらず給水装置の点検や施工も行っています。

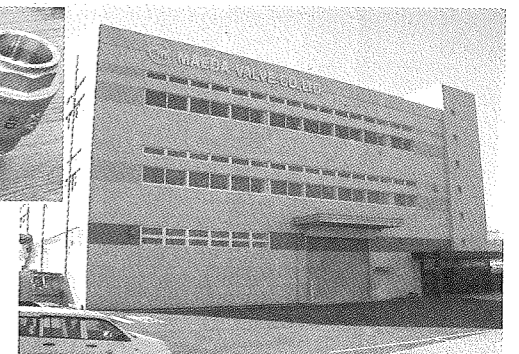
当社は、1946年に祖父が創業しました。法人化したのはその10年後の56年。そのころ日本は高度経済成長期で、名古屋市内だけで水道に関する装置の需要は相当多かったです。

そのため当時の販売エリアは名古屋市内が中心。そして、水道をご家庭に届けるために必要なパーツのほとんど全種類を製造していました。

その後、日本が安定成長期へと移行すると、名古屋市内とその周辺の水道設備に関する需要は落ち始めていきました。そこで当社は福岡市博多区に九州営業所を、札幌市中央区（現在は同市東区に移転）に札幌営業所



水道を管理する各公共団体によって異なる基準に合わせて製造したそれぞれ違う形の水道管をつなぐ継手(上)と本会社に併設する港工場(右)



多品種・小ロットへ

現在当社が取り扱う給水装置は、配水管から給水管を分岐し、ご家庭に給水するための「分水

社。現在は専務として経営に携わるとともに、新製品の開発や新たな市場の開拓に力を入れています。

例えばこれまでに、日本初となる住宅用火災警報器と連動する住宅用のスプリンクラーを開発したり、ミヤンマーのザガイン市とパートナーシップを提携し、同市の安定した給水を実現するためのお手伝いなどを行っています。

今後は、少子高齢化が進み、日本の人口は減少していくことから、危機感を強くしています。が、これまでに築き上げてきたブランド力で、給水装置メーカーとしての地位をより強固なものとしていきます。そして、最高基準の安全性と安心感が求められる飲み水に関わる製品を作っているという使命感を忘れずに、新製品の開発も進めていきたいです。

栓」、給水を開始・停止する「止水栓」、水の逆流を防ぐ「逆止弁」、水道管にたまった空気を抜く「空気弁」、そして給水管をつなぐ「継手」などです。

給水装置は、地震が多いエリアなど維持管理について地域ごとで事情が異なるため、上水道を管理する公共団体によって仕様が異なります。例えば同じ機能を持つ継手でも、ワンタッチで簡単に接続できるものから、

一度分解して接続するものまでさまざま。名古屋市内では使えないが、他の地方公共団体では使えないということがあるので、全国規模で見ると、驚くほど種類が多く、まさに多品種・小ロットです。

新製品開発にも挑戦

現在は父が社長を務めています。私は大学卒業後3年ほど別の会社に勤め、2006年に入